

研究委託校・実践校の紹介

豊浦町立豊浦中学校

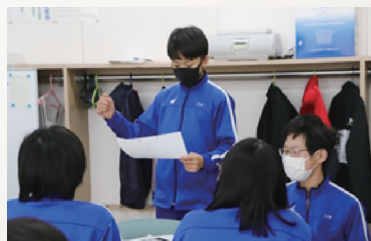
10月29日(金)公開研究会

本校では、研究主題を『主体的・対話的な学びを通して自らを振り返ることができる生徒の育成』として、各教科の授業づくりを中心に研究をしています。

令和元年度は「導入における学びへの必要感を高める課題設定」、令和2年度は「展開における交流活動の工夫」に視点を当てました。そして、まとめとなる今年度は、これまでの実践の積み重ねを活かしながら「～各教科における新たな課題意識を持たせる工夫を通して～」という副題を設定しました。生徒に課題意識を持たせる終末にするための工夫を、タブレットなどのICT機器を活用しながら研究しています。

主体的・対話的な学びを通して自らを振り返ることができる生徒の育成

～各教科における新たな課題意識を持たせる工夫を通して～



1年国語科

「蓬莱の玉の枝」
古典の親しみを持つことを目標に、貴公子の良さをアピールしているところ



2年英語科

「不定詞」
学校の設備を基にしたカードゲームで、学習の必要感を高めているところ

洞爺湖町立虻田中学校

10月29日(金)公開研究会

本校の研究主題に迫るため、特に「主体的に学習に取り組む姿」「自己肯定感にあふれる姿」「共に学び合う姿」を重点に取り組んでいます。授業改善として、言語活動のアウトプットを意識し、思考や練習の時間を確保しています。また、町内連携の学習の指針である「洞爺湖町スタンダード5」を意識した授業づくりも進めています。さらに家庭学習の充実、放課後の学習サポート会、読書活動の推進等にも力を入れています。現在は、文系・特支と理数・芸体との2部会に分かれて校内研修を行っています。研鑽を深める中で、取組の効果や研究仮説の検証を見極めていきます。

生き生きと学ぶ生徒の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～



2年社会科

「中国・四国地方」
ICT機器を使用して資料を提示しているところ



2年社会科

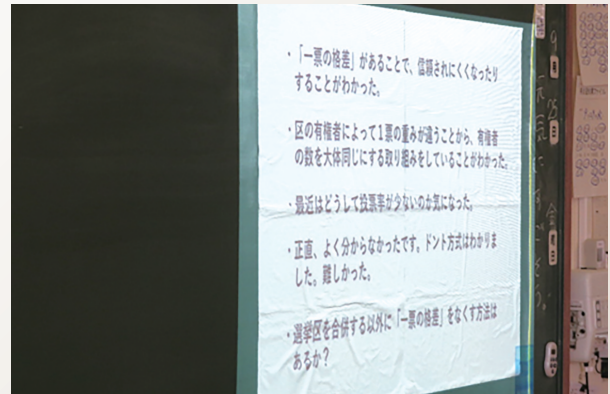
「中国・四国地方」
教科書をペアで音読しているところ

白老町立白老中学校

今年度公開研究会は中止

白老中学校では、「学ぶ姿勢を身につけ、確かな学力の定着を目指す授業の充実」を研究主題としています。課題設定→自力解決→学び合い→まとめ・振り返りを基本とする白老中学校型の課題解決学習を行い、授業改善を行っています。1年次には「学びの質を高める課題設定」、2年次は「まとめ・振り返りを通じた学びの深化」に重点を置き、3年次となる今年度は「課題解決型授業全体の質の向上」に重点を置いています。これまでの研究から、質の高い学習課題と明確な学習目標を生徒と共有することで、授業をより充実したものにできると考えています。

学ぶ姿勢を身につけ、 確かな学力の定着を目指す授業の充実



3年社会科 「選挙のしくみ」
ICTを用いて振り返りのフィードバックを行うところ

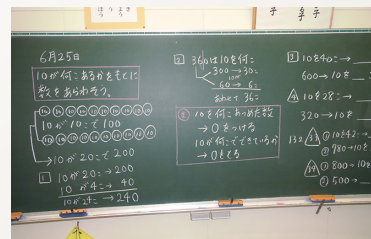
伊達市立長和小学校

11月19日(金)公開研究会

本校では、各教科を研究領域として、令和2年度から3年計画で研究を進めています。昨年度は、「つかむ」と「見通す」の学習過程の工夫について焦点化し、全学級の授業研究を通して授業改善を目指してきました。今年度は、「考える」「まとめる」「深める」段階での「主体的・対話的で深い学びの在り方」について教科を算数科に絞り、1単位時間のタイムマネジメントを意識し、日常の授業での実践・検証・改善を繰り返しながら学力向上にも結び付く「楽しくてわかる授業」の構築に向けて研究を進めています。

考える楽しさ、わかる楽しさを 実感できる授業を目指して

～5つの学習過程を踏まえた日常授業の改善～



2年算数科
「100をこえる数」
めあて—まとめ—振り返りを意識した板書



6年算数科
「分数のわり算」
面積図を使って複数の児童に説明しているところ

安平町立遠浅小学校

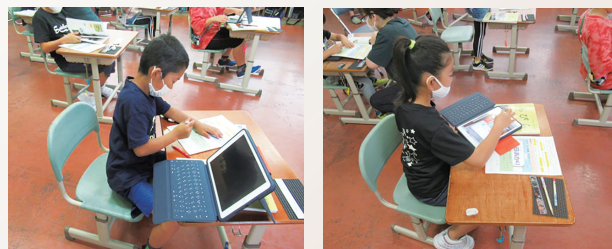
11月19日(金)公開研究会

遠浅小学校は、今年度のテーマを「深い学びを実現するための指導法とその活用を目指して」、サブテーマを「少人数でも主体的・対話的で深い学びを実現するための指導の工夫」として研修しています。

教科の特質に応じた「見方・考え方」に着目し、言語活動や数学的活動などの教科に応じた学習活動の効果的な導入、および、ICT技術を指導過程に効果的に取り入れることでの学習の見通しの容易化や作業の効率化により、児童の学びに深まりを生むための指導を研究しています。

深い学びを実現するための指導法とその活用を目指して

～少人数でも主体的・対話的で深い学びを実現するための指導の工夫～



3年社会科

「はたらく人と私たちの暮らし」

iPadを使ってまとめの発表をしているところ

むかわ町立穂別小学校

11月2日(火)公開研究会

本校では、研究主題を「自ら考え、進んで学び合うことのできる子どもの育成」として、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を目指して、国語科の授業づくりを中心に研究を進めています。

これまでの授業実践の積み上げとして、①単元を通した指導事項の明確化、②単位時間の授業の学習過程(特に課題、見通し、振り返り)の意識化、③目標達成に向けた「対話的な学び」の蓄積、の3点を取り組みの重点に掲げ、児童一人一人が「できた、分かった」を実感できる授業を目指し研究を進めています。

自ら考え、進んで学び合うことのできる子どもの育成

～言語能力を高める活動が充実した国語科の学習を通して～



1年国語科

「もののなまえ」

お店紹介に必要な事柄について意見を交流しているところ



授業研後の研究協議
学習過程や教師の発問等の改善点を拡大指導案に書き込み、協議しているところ

前回の5分間ミニ研修では、GIGAスクール構想のもとで、ICTの効果的な活用についてを、令和2年9月の文部科学省から出されている参考資料よりお伝えしました。今回は、個別最適な学びと協働的な学びについて考えていきたいと思ひます。

文部科学省は令和3年3月に出した「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」の中で、個別最適な学びと協働的な学びについて以下のように示しています。

(出典 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/mext_01317.html)

令和3年答申では以下のとおり、「個別最適な学び」について「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性が指摘されています。

- 全ての子どもに基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子どもにより重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。
- 基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子どもの興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」ですが、これを教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」です。学習指導要領の総則では「児童(生徒)の発達の支援」の項目において、「個に応じた指導」の充実を図ることについて示しています。「個に応じた指導」に当たっては、「指導の個別化」と「学習の個性化」という二つの側面を踏まえるとともに、ICTの活用も含め、児童生徒が主体的に学習を進められるよう、それぞれの児童生徒が自分にふさわしい学習方法を模索するような態度を育てることが大切です。

日々の授業の中で実践していることも多いと思ひますが、更なる授業改善の手助けになればと思ひます。

胆振教育研究所では、今年度より個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりについて研究しています。ホームページには昨年度まで研究していた「明日から使える主体的・対話的で深い学びの授業実践」も掲載していますので、授業改善の参考にしていただければと思ひます。

夏期研修講座のまとめについては下記URLに載せてありますので、ご活用下さい。

URL www.iburi-education.jp/events/r03summer

